

# 36年 新報

## ・メンバー

リーダー	佐藤 雄一	林学科 4年
会計	奥島 啓志	" 2
医薬	加藤 音一	" "
装備	小川 永行	" "
"	砂川 祐司	畜産科 2年
食料	玉井 洋明	" "
気象	新 幸英	林 2
記録	出島 五郎	" "
"	川崎 誠	" "

以上 9名

## ・残留部員

末次 哲雄	農学科 4年
葛西 正美	林 3
主計 勤也	" "
寺田 雅治	" 2
宮内 奥雄	農 2

## ・顧問教官

中村 健 助教授  
森林化学教室

## ・登山本部

伊那市郊外、信大農学部 厚生補導係内  
信大山岳会 伊那山岳部 (Tel 2178)

○ 期日 1961年7月21日～31日

○ 日程概略

- 1 (21日) 伊那北<sup>(バス)</sup> — 丹波 — 北沢峠
- 2 22 北沢峠 ↔ 空身で駒籠往復 — ヤブ沢 — 仙丈小屋、テント地
- 3 (23) 仙丈岳 — 高望池 — 西股出合
- 4 (24) 西股 — 左股 — 北岳 — 南の岳 — 熊の平<sup>(#川越)</sup>
- 5 (25) 熊の平 — 流瀬
- 6 (26) 熊の平 — 塩見岳
- 7 (27) 三伏小屋 — 烏帽子岳 — 本谷山 — 三伏峠小屋
- 8 (28) 高山裏 — 茶臼岳 ↔ 悪沢岳往復 — 高山裏<sup>テント地</sup> — 赤石岳
- 9 (29) 百向洞口<sup>テント地</sup> — 百向洞 — 大沢岳 — 上河内岳 — 茶臼岳 — 仁田池
- 10 (30) (空身) 仁田池 — 易老岳 — 光岳 往復
- 11 (31) 仁田池 — 易老岳 — 易老沢 — 本谷口 — (バス) 平岡 — 伊那<sup>(電車)</sup>

○ 予定コースを変更した箇所

1 丹波 — 駒六合目 — 駒ヶ岳 — 北沢峠 (予定)

2 南の岳 — 悪鳥岳 — 北沢峠 (実行)

→ 塩見岳 — 上河内岳 — 池の沢 — 雪投沢

↓ 熊の平 — 北麓岳 — 塩見岳

伊那北(バス) 伊那(電車)



# 行道記録 所要時間 その他

7/21

伊那北出発	6:17
戸台	7:40 ~ 50
白岩	8:50 ~ 9:00
寝木小屋沢出合	9:50 ~ 10:05
丹溪山荘前	10:45 ~ 12:00
休止	1:0 ~ 1:20
三味線平	1:30
北沢峠	1:55
〃 テント地	2:05
夕食 (4人分)	5:40 ~ 5:55
消灯	7:00

歩行中は何の支障もなく、北沢峠まで5ピッチでゆく。丹溪にて予定の赤河原コースをきつぬると、沢の状態が非常に悪いとのこと。例、倒木、道の欠壊等の為、北沢峠へ直接行くことにする。  
 ◎設営以後の自主的行動がのやまれる。

7/22 駒往復、仙丈岳

エッセン当番起床	4:00
全員起床	5:00
朝食	5:30 ~ 35
テント地出発	6:05
仙水峠	6:50
休	7:05 ~ 12
駒津峰	7:25
甲斐駒頂上	8:10 ~ 25
駒津峰	9:05
仙水峠	9:25 ~ 35
北沢テント地	10:05 ~ 50
休	11:35 ~ 45
仙丈岳4合目	12:15 ~ 50
ヤブ沢分岐点	1:00
ヤブ沢小屋	1:20
ヤブ沢	1:25 ~ 40
仙丈小屋テント地	2:25
夕食 (7人分)	4:10 ~ 30
全員テントに入る	6:00
消灯	7:00

朝食後、パッキングをすませる。サブ2、水筒3、カマ2を持ち駒往復。北沢の状態は前と変り、テント地へ戻り、朝食の残りを食べる。ヤブ沢渡渉点は4~5人用テントサドが2つある。仙丈の村営小屋より約10m下にテントをはる。更に10m下にゆき水あり。消灯前に反省会を行う。  
 ①準備体操、整理体操をはじめが、大いに効果があった。  
 ②テント設営の際など、各人の態度、行動はまあまあである。



25日(5日) 曇時々晴、又は雨のため沈滞。

起床 4:00  
 4:45に相談、1時間 2人の音。  
 洗濯決定 5:00  
 起床 8:  
 朝食 9:15~20  
 風呂用意 12:  
 風呂 (13-) 13:30~14:  
 風呂 14:45~15:  
 風呂 15:30

○昨日しごめ山火のて、静養  
 明日は三伏峠までとする。  
 この山の平地は沈滞は474  
 50とあるが119程、高山越  
 越は、徳久 豊部を大志願  
 の山林が、石屋 志願の音子。  
 117の山越 車は117の山越  
 2004 等 和精以上を越え  
 田 程 野 越 等 の 変 更 が 多 少  
 の で 殆 っ 全 部 点 検 中 途 途

26日(6日) 曇一時晴見舞一 雨 午後沈滞

起床 3:50  
 風呂 4:45  
 洗濯 6:00  
 朝食 9:15~20  
 風呂 9:25~40  
 風呂 10:10  
 風呂 11:35~45  
 風呂 11:20~40  
 風呂 11:40~50  
 風呂 12:35~1:05  
 風呂 1:25  
 風呂 1:40  
 風呂 1:55  
 風呂 2:10~  
 風呂 4:00

○北原川盆 附近 北 崎 山  
 稜 線 中 間 部 一 台 和 根  
 の 上 土 砂 の 2 1 1 2 雪 の  
 状 況 等 2 1 1 2  
 ○ 堀 見 岳 西 側 の 標 高 2 1 0 0  
 の 山 頂 部 新 木 尾 野 野  
 ○ 堀 見 岳 の 西 尾 根 部  
 本 雪 け 急 斜 下 重 積  
 全 部 3 時 頃 注 意 を 要  
 する。  
 ○ 各 人 線 の 中 間 部 報 告  
 の 設 備 者 様 師 具 使 用 等  
 ○ 食 料 細 細 結 核 等 如  
 神 2 1 1 2 等 如 若 は 食 料 等  
 ○ 医 薬 1 1 2 1 2 等 如 若 展 展 味  
 ○ 記 録 堀 見 岳 の 山 越  
 4 1 1 2 等 如 若 展 展 味

① ナガ沢コースは明日は晴れ  
 ② 右股沢は大滝から右岸尾根に上る(地図で確認)  
 ③ 6日間の最高 23.5°C (夕 7.5°C) (仙丈)  
 他 略

27日(7月) 三休 — 高山裏テント地

当番起床 4:30  
 全員 " 4:50  
 朝食 5:00~15  
 出発 6:05  
 烏帽子岳 6:50~7:05  
 小河内岳 8:05~8:15  
 大日敷 板屋コル 9:05~9:30  
 高山裏北が山(昼食) 10:20~11:00  
 高山裏テント地 11:10  
 夕食 4:05~30  
 全員テントに入る 5:30

この高山裏テント地は木場まで約5分かかるが水量は豊かである。布バケツが大いに役に立つ。

反省 その他  
 ・朝食後のパッキングが遅い。  
 ・他人のスリッパを見て笑った。紐がいたが、助けてやる位のパーティショップに存っておりたい。  
 ・行動中の注意力が再認識を要する。  
 ・おふ水もばかしの夏夏の太陽と木々の緑の中でトカゲをする。盛大パーティと抜きっめかれつ。

28日(8日) 高山裏 — 茨川岳 — 赤石岳 — 百間洞

当番起床 2:50  
 全員 " 3:55  
 朝食 4:15~30  
 出発 5:20  
 休 6:20~30  
 悪沢岳分岐点 7:25~35  
 悪沢岳 荷物テポ 8:20~25  
 " 分岐点 9:20~35  
 大河原分岐点 10:35  
 休 10:50~11:05  
 小赤石岳 11:40  
 赤石分岐点 11:45  
 赤石岳(昼食) 12:00~1:00  
 百間平 2:00~20  
 百間洞 2:45  
 夕食(スプ) 4:50~5:10

倉庫も中盤をすぎで精神的に少しだれているが、足を引きしめて行かぬばならぬ。今日は茨川三山、赤石岳と大いにかせいたが、荷の重さや体力から1時間1ピッチで苦しくない。食事ができる前には、当番と同様に全員がおぎれば撤収がスムーズに行けたら、明日から全員一斉におぎることにする。急な下りなど、確実に安全と命をいれれば、バランス訓練のために右手をつかまわいで下りるようにならう。

赤石岳には雪渓が残っており冷めたいジュースをのんだ。うまい!!

29日(9日) 区向洞一聖一仁田池

当番起床 3:00  
 全員" 3:30  
 朝食 4:10~30  
 出発 5:15  
 中盛丸山 6:55  
 休 7:35~45  
 ウサギ岳 8:10  
 聖岳コル 8:40~55  
 聖岳 11:35~12:10  
 休(食) 1:10~30  
 上河内岳(下座園) 2:10  
 休(自然座園) 2:35~45  
 茶臼岳 3:30  
 仁田池 3:40  
 聖平 11:35~12:10  
 夕食(カレー) 6:00~15  
 消灯 8:20

予定は聖平までだったが  
 が天気が下り坂なので今合宿  
 中 最長の仁田池までと  
 した。皆よくがんばってくれ  
 た。明日晴れれば撤収して易  
 老岳からサブで光岳往復の後  
 北股渡に下り雨をり沈滞とす  
 る。----佐藤氏談  
 最長の3000m山峰。聖岳も、黒  
 事すぎで残すは光岳のみと  
 考えた。区向洞からは大沢岳  
 を通らなくて、谷沿いに下りウサギ  
 岳に出る道がある。  
 上河内岳をすぎた茶臼までは  
 無意識に自然座園と名づ  
 けてしまった程。美しい所が  
 ある。この附近でまライチョウ  
 を見かけた。

~~聖平下地は水場が~~  
 仁田池は南くと見るでは  
 大きなちがい。直下10m位  
 のドロ水で飲用不適である  
 のドロ水を5分ほど下った所である。

水場はすべりやすい

30日(10日) 光岳へハイキング

当番起床 4:10  
 全員" 5:30  
 朝食(初後眠) 5:35~45  
 仁田池発 9:30  
 易老岳(食) 10:25~11:25  
 信濃股西沢にて水補給  
 静高平(セツガ原) 1:15  
 光岳 1:30~45  
 静高平 2:30~2:00  
 信濃股西沢にて水補給  
 市高平 3:45~4:05  
 易老岳 4:15  
 希望峰 5:10  
 希 仁田池 5:25  
 夕食(カレー) 7:40  
 消灯 8:45

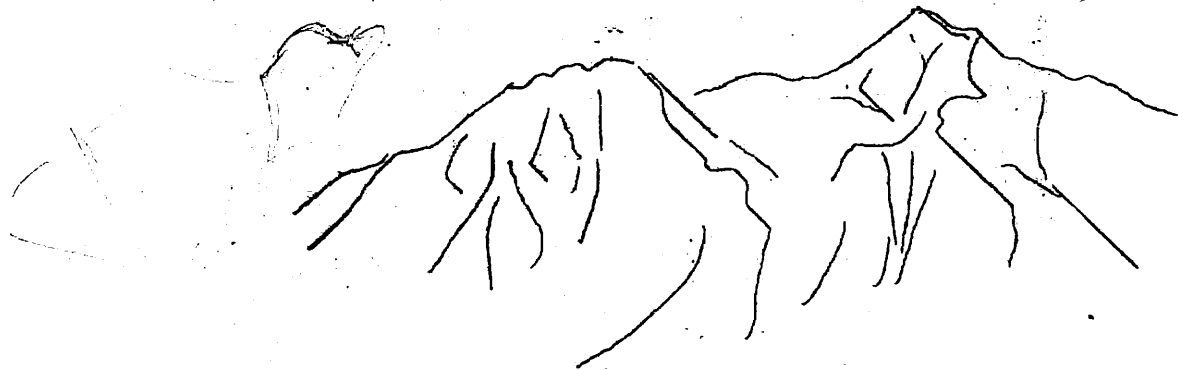
朝食後、はっきりせぬまま  
 がーグー眠っていた。空は快  
 晴だったので空身で光岳へ  
 ハイキングに行く。セツガ原  
 あたりは暑っぽい。往復  
 時間も(す)かかりハイキングの  
 ころではなかった。  
 三伏から盛大パーティと一巻者  
 だったが夕夜多かり学ぶこと  
 が多い。  
 明日はいよいよ下山だ。  
 残りの食料を十分に使う。  
 腹いっぱい食べた。  
 夜ともなれば、#川谷の灯が  
 ちらちらと光輝く、すごい星空



7/31 (11日) 仁田池 - 易老岳 - 遠山川 - 平岡 - 伊那

当番起床	4:30	今日は下山日だ。
全員 "	4:50	易老岳までは昨日来た
朝食	5:50 ~ 6:05	道である。
出発	6:30	易老岳から易老沢へ下
希望峰	6:50	る道はほとんど廃道
休	7:00 ~ 7:05	である。初めのうちは道
易老岳	8:05 ~ 15	があるがやがて消え
三角点	8:35	ている。忠実に尾根
出島	8:40 応急処置	を下るがよからう。
出発	8:50	倒木を払って出島
休	9:10 ~ 20	氏がナタで竹がきする。
休 (通平?) (食)	10:00 ~ 35	易老沢にててから易老渡
易老沢に出る	11:15	まではき川原沿いに
休	11:35 ~ 55	石の上を行く。分岐点
易老岳分岐釣橋	12:05	の釣橋はこめれているので
光停車場	12:25	少し上流で、右岸(遠山川の)
北又渡 停車場	1:40 ~ 45	に出る。
北又渡 停車場	出島便乗	森林軌道は北又渡
本谷口) バス	3:55 ~ 4:35	以奥は線路こめれている
和岡) バス	~ 6:00	使用できず。北又渡
平岡) バス	6:45 ~ 7:11	にてザックをのせてモリ
伊那市) 汽車	10:00	い。出島氏がつきそって
		行った。本谷口からは
		バス、汽車で伊那へ帰る。

11日直にゆたった合宿も終わった。  
 伊那から望んだ馬、仙丈、塩見 etc 豪快  
 な3000m級の山々をふんできたのだと思  
 うと、目的を果たした満足感と幸福感でいっぱい  
 になってきた。



— 佐藤雄一 —

今度の合宿に南アを入り込んだ事は初めの考案からして、それを吾々  
やらなければならぬという一種の義務とも云うべきものを感じた  
過言でなかったと思ふ。まづ第一現在の我々のクラブは昨年  
として究極の段階にまでは到達していないにせよ、一応のまとま  
持ちうる段階にあること、亦二に地域的に学校自体が南アと中アの  
伊那谷のほぼ中央に位し、中アは昨年一年間のトレースで一応  
足踏は即知のものゝされたが、南アはクラブとして未知のもので  
た。しかるに今後の我々の目的は冬の南アをめざしその準備工作  
でも夏の南ア全山縦走を我々の足でしておきたかった事である。  
三にクラブの現状として二年生部員の今後の活発にそなへるべく  
かの養成とメンバーシップの拡充、リーダーシップの育成と向上に、  
点的に力をつけてみた。

また装備、食料、気象、医療、記録、会計の六つに分けその仕事  
各係員が全責任をもちあたることになったのである。  
として各係は入山するまでの間、着々とその準備にとりかかっていた。  
主、三年及び四年部員が官片実習、卒業論実験などにより参加  
まづ上組部員が一名だけとなった事は比喩におしまれておらぬ。  
実際に我々がやってきた ~~前記~~ 行動自体は前述の行動記録に  
でている毎きものであったが甲斐馬はり光までのトレースは苦しい  
事も多分にあつた。しかし我々には比喩に勉子金になつたと思  
う。時に今迄未知であつた南ア全山が現在、我々の手の中にな  
つた事は、今後我々が進もうとする南アに対する着眼点も  
自から違つたやものとなつて来た。  
すなわち我々が厳冬期の南アをめざすならば北岳以南の稜線  
には見るべき物がなかつたと思ふ。この夏期合宿をおえて、今ここに  
結論づけるならば夏の縦走における体力の養成という点では  
多大の効果があげられたものと確信している。而し南アの積雪  
期に極地法登山を遂行するならば金居岳から駒谷に至る主稜線  
が脚光をあびてくるのではなからうか。

最後に現在究極途上にある我々のクラブをより一歩  
もり上げてゆく為にはクラブ員各位のたまはぬ努力  
を惜しまず前進してゆくなければならぬのである。

# 係の報告

## 会計 奥島啓志

◎ 総収入 22,400 円

{ 合宿費 2400 × 9 = 21,600  
 {不参加者 200 × 4 = 800

◎ 総支出 22,400 円

・ 支払  
 ・ 両股場前代 1,100  
90

{ 交通費 { バス代 (伊那北-平岡) 搭代共  
 (105 + 20) × 9 = 1,125

{ バス代 (本谷ロー平岡)  
 90 × 9 = 810

{ 汽代 (平岡-伊那南)  
 240 × 9 = 2,160

小計 7,075

{ 装備通信 { マジックレキ 50

{ 石油 200

{ ノジギリ 600

{ 電池 650

{ ローター 200

{ 電話 140

{ 小計 5

{ その他 300

{ 小計 2,145

{ 食費 { 米 4,400

{ パン 2,500

{ 野菜、調味料等 7,569

{ 小計 14,469

{ 以上合計 21,899

{ 金でコンパ (スレ等) 501

{ 22,400

以上

医療

加藤 龍一

持参薬品

健胃消化剤
風邪薬
サルファ剤
鎮痛剤
アネピラ
ガンマロニン
(脳代謝前劑)
ビタミン剤
正露丸

内服薬

外傷薬器具

マーキュロ
オキシフル
ペニシリン軟膏
レスタミン
モナフラシン
メンソールタム
バンソーコー
苳帯
かご
脱脂綿
綿棒
ヒロンセット

使用の多かったもの

正露丸 40粒  
 ビタミン剤 60錠  
 風邪薬

マーキュロ  
 バンソーコー

以上のものが特に多かった。

不備だったもの

ヨードホルム、ハサミ、ホータイ止め、ヨードホルム  
オキシフル

(反省) ビタミン剤の豊富使用が確かに効果があつたと思う。(クチビルの蒸れがなおつた)

反省点として、食いすぎにより、正露丸の使用がはなはたしい。又風邪薬の不足をいがおげられる。

外傷薬では、オキシフルを一ビンほしかつた。

(綿にしみこませたやつを持っていた)

バンソーコーの不足。(なるべく巾着のもの)

ヨードホルムを持参しなかつたのは失敗だった。

以上

食料

to receive  
means  
view of world

	朝食	夕食
二十一日		ホエールステーキ肉 400g弱 コンゴ 2袋 トマト 4個 ラード ソース しょう油 塩 適当に使用
二十二日	ミソ汁 オスビ <sup>ミン</sup> <del>本</del>	玉子丼 玉ねぎ 50 たまごめいば (玉子 50) つぎもの 他調味料等 きつりり ほうゆ (味の素) 使用
二十三日	ミソ汁 オスビツク 高野豆腐 ダシ	スープ 玉ねぎ おろし ソーセージ (スープの素) (塩-粉) つぎものとして おかめの三杯酢
二十四日	ミソ汁 キャベツ 高野豆腐 ダシ ツカモノ	キャーハン ニンジン 1本 玉ねぎ 50 キャーの素 ソース ダシ ラード 使用
二十五日	泡 ラーメン 50 ソーセージ 1 濃 ラーメン スープ 1パック 白 玉子 1 コシアン 2袋 カタカリ粉 砂糖	煮入御飯 玉ねぎ 4 キャーハン 少々 ピーマン (ピーマンのイタメ)
二十六日	ミソ汁 キャベツ 高野豆腐 ダシ	カレーライス ポテト 6 玉ねぎ 3 ソーセージ 2 小麦粉 カレー粉 塩 ソース
二十七日	ミソ汁 オスビ 高野豆腐 ダシ ツカモノ	サラダ マヨネーズ 1 キュウリ 4 玉ねぎ 2 ポテト 6 キャベツ 1 調味料
二十八日	キャベツ 打カメ ミソ ミソ汁 ツカモノ	スープ 玉ねぎ 3 ポテト 6 ソーセージ 1 スープの素 調味料
二十九日	ミソ汁 打カメ キャベツ ダシ	カレーライス 玉ねぎ 3 ポテト 6 カレー粉 小麦粉 塩 ソース

三十日	ミソ汁 ワケム + スビ ダシ	4ヤツフ <sup>飯</sup> ソコージ2 タマネギ4 ケヤ <sup>フ</sup> 言周ロ本料 ス <sup>フ</sup> ジャガイモ スープ <sup>の素</sup>
三十一日	ミソ汁 ワケム 高野豆腐 ダシ	朝食は伊那で肉を買って コンパとしい。

注

昼食はパンとジュースを基本としてそれに3日間に  
1回位の割合でキューリを出した又はトマト  
それに1袋のPMを配った  
1日に

反省としては野菜が少なかつた事を計量カップを  
持参しなかつたので米を多く食べすぎた事でした。  
動物タンパク源の少なかつた事

しかし重量の事まだ考え英が多数あると思う。  
ビタミンは絶対に不足すると思つたのでセタミン剤を使用  
大分効果があつたと思つている。元パンに肉は200g  
ではどうも不足であるので量をまして大きくするよりは  
小さなやつをニコにするほうが良いのではないか  
味としてはまあまあだつたと思つているがちかうチキンの製法  
でやつて見ても良かつた。うたえはカンパンとか文狸みたい  
にしてよいし方法はいろいろもあると思う。  
又高くはなるが朝の食事時間を短かくするために朝食を  
ラーメン等の簡単なものにして昼食を三回にする方法。  
肉の干したものの等の利用 (これは信大には無利かな)

後記

こんなことをなにか同じものを作らないう努力はして見たが  
なにも知らずなり小生にはとても考えられずやはり前の記録  
を見てしまひマンネリ化してしまつた。大変申しわけない  
と思つている。今度やる時までは新料理をお目にかけ  
ようと思つております。御期待下さい

丁生

# 装備係

砂川 拓司

品目	数量	所有主	備考・反省
テント 夏テント ESSEN	1張 1張	本部 小川	8人用 フライ付 2人用
テント付属品		本部	ペグ3本紛失する
グランドシート	2枚	本部	
スコップ	1個	部	放出品
ローソク	9本	〃	5本消費
SEIL	1本	〃	11mm 30m
拾い縄	3本	〃	同も使用せず
ハーケン	6個	〃	
カラボナ	9個	〃	
ハンマー	2個	〃	
ラジオ	3台	川崎加藤部ヨリ	全般的に見てあまり調子が良かったとはいえない。
メタ	5個	部	使用済み
石油	8L	〃	5L使用済
石油ポンプ	1個	〃	
火吹き竹	1本	〃	非常に役に立つ
マッチ	97枚		倉庫より97枚だけもらう
うちわ	2本	〃	2日目にて使用不可能になる
カベ・フライ	2個	〃	
お玉壺	1個	〃	<del>予定</del> 2個持参予定
シヤモジ	2個	〃	
食器	ハシ	13人分	
タワシ	3個	〃	1個北沢テント場にてひろう

夏用テント

テント付属品

ラジオ

メタ  
石油  
石油ポンプ  
火吹き竹

	品目	数量	所住	備考・反省
使用 具	ナタ	?	10人	
	ホリタン	数個	10人部	
	布バケツ	2個	部	
	ライホンフ	2個	"	1/2個使用する
その他	金居	1個	"	
	マジック	1本	"	
	針かき	1本	"	
	双眼鏡	1個	加藤	
	懐電	7	10人	
	細びき	47	部	
	取組線香	1箱	"	箱はミッドに壊 わけてしまう。注意要

敬称略

### 装備係の反省点

今期合宿は長期にわたると予期され又無条件がツライと思  
われたので好むべく不必要なものを持っていかばかったの  
で案外軽くまとまりました。  
燃料に候う打木が豊富に有りラジオを使用せよと  
良く本当にたすかりました。  
雨具の件は佐トウさんから指摘されてより未だ考える点  
多い。全々持参しはかったり、リュックの奥深くしまっ込まね称!  
最後は「ランジスターラジオ」を忘れたこととおわびします。  
砂、木川 記



気象 新幸茨

今回の合宿で気象係は重大な失敗をやりかした。  
 伊那北、駅でラジオを兼  
 結失した事。そしてもう一台持って来ているものと思っていた  
 ものを連絡不充分の為、持って来なかったことである。  
 其の為に気象係も大分苦勞した。塩見岳までは他の  
 パーソルがいたためどうにか聞かせてもらって書いたが、以後  
 以後は天気図を以てした。聞かせて下さいと頼みに  
 行くことつらさ、自分の失敗がほとんど身にしてみた。

21日 華北からオホーツク海にかけて前線がはしり、そのぼろ。  
 中央に990mbの低気圧があり東北東に進んでいる。  
 このため太平洋の高気圧が伸び、一日中くもりで時折  
 うめびがさす程度であった。最高気温 20°C、最低 16.5°C

22日 沿海州北部から北海道東部にかけて前線があるが  
 黄海の東に弱い高気圧ができ、午前中晴れていた  
 が午後から次第に雲が厚くなる。P.M. 6:00 最低  
 仙丈岳カールにて 最高 ~~21.5°C~~ 21.5°C 最低 12°C

23日 茨城東部の大きな低気圧が東南に張り出し太平洋の  
 高気圧とで、微妙な天気となる。正午少し前に晴れ、  
 雨が出たがすぐにくもり小雨をはらつかせ夫が又す  
 ぐ止む。P.M. 6:00 最高 20°C 低 15°C (両股)

24日(天気図なし) ゆらべの暖かさで雨が予想されたが、果し  
 て雨がふった。一日中ぐづついた天気だった。  
 (熊の平) P.M. 6:20 高 ~~20°C~~ 高 15°C 低 10°C

25日 N47° E129°, N46° E150°, N55° E153°  
 多々低気圧を結ぶ前線があるが、太平洋の  
 高気圧もはりだし、今日中はくもりだったが雨の空  
 は晴れ間が出るかっていた。P.M. 6:00 高 23.5°C  
 (熊の平) 低 14°C

26日

満州から樺太、北海道中部、カムキツカに走る前線があるが、太平洋の高気圧がはり出してきているので、くもり又はうすくもりであった。しかし風は強く20m近く吹いていた時もあった。P.M.6:00 高23° 低15° (三伏小屋)

27日 (以後天気圓なし)

太平洋の高気圧が大きくはりだし根をはったのであろう。27、28、29、30日共に晴である。31日も晴、時々くもりである。

以上

### 記録

合宿として南の金山縦走を行うのは初めての試みだったので、①水場の状況、②地図と実地とのちがいを発見する、③後のために、正確な記録を残す等の目標を立てましたが十分なものできず、申しわけなく思っています。

記録係として感じたことは、各係の諸兄にもっと協力してもらった事です。報告書作成の資料を提出してくれと何回も云っていたのに、~~実際にはほとんど提出されず~~、全然出してくれず、作成が1ヶ月以上も遅れてしまいました。



ヤマアサマキク



ミヤマアサマキク